

那須塩原市議会だより

ぎかいのひととき

6月定例会議の内容をわかりやすくお伝えします。

2025.8.20 No.115

特集

一般社団法人
黒磯那須青年会議所
×
市議会

MENU

特集	P 2
体験型！夏休み子ども議会探検	P 4
会派代表質問・市政一般質問	P 9
Future	P 18



特集

一般社団法人 黒磯那須青年会議所 × 市議会

俺たちがやる。－成長と変化を共に－



一般社団法人 黒磯那須青年会議所

20歳から40歳までの地域の青年経済人で構成された団体で、主に経営者やその後継者、地域活動に関心のある若者たちが集っています。地域社会の課題解決や人材育成を目的に、志を持ったメンバーが主体的に活動しています。

<団体の目的や活動内容は？>

◆「明るい豊かな社会の実現」を理念に掲げ、地域社会の発展と次世代を担うリーダーの育成を目的としています。自己研鑽や地域貢献を通じて、持続可能なまちづくりに貢献しています。

<会員は何人？>

◆現在、正会員が32人、賛助会員が9人、特別委員（OB）が118人です。

<会員が40歳までの理由は？>

◆青年会議所は「青年」の成長を目的としています。世代交代を進めることで常に新しい視点と行動力を持った組織を維持することができ、持続的な発展につながっています。

<活動の楽しさややりがい、また大変なところは？>

◆年齢・業種を超えた仲間と共通の目的に向かって活動できることが喜びです。子どもたちの笑顔や成長のきっかけとなれることにやりがいを感じますし、イベントの達成感や地域からの感謝の声は原動力となります。一方で、仕事や



「明るい豊かな社会の実現」を目指して

家庭との両立が一番の課題です。また、事業をゼロから企画・実行する中での意見調整や外部との連携は簡単ではありませんが、その分得られる成長や達成感は大きいです。

<活動の中で得るものは？>

◆課題解決力、組織運営力、リーダーシップなど青年経済人としての基礎力を磨きつつ、人としての器を広げたいと考えています。地域とのつながりや仲間との出会いも大切な財産です。

<地域とどのように関わっていききたい？>

◆「共に歩む存在」でありたいです。地域の皆さんと連携しながら、課題の共有とその解決に向けた具体的な活動を通じて、信頼される存在であり続けたいと考えています。

<今日の事業について>

◆今回、ドリームサポーターとして子ども達に喜びを感じてもらいながら、それを普段の生活にも活かしてもらいたいという思いを込めて、また農業を身近に感じてもらう機会を作るため、家族会で子ども達と一緒に、野菜の収穫体験を実施しました。

<那須塩原市はどんな地域になれば良い？>

◆観光資源や自然、歴史、文化を活かした地域経済と暮らしのバランスが取れた地域社会を目指していきたいです。

そうなることによって住民一人一人が誇りを持ち「この地域で暮らしたい」「子どもを育てたい」と思えるようになるのではないのでしょうか。



体験型！夏休み子ども議会探検

当日の様子を一部レポートします。(2025.8.1)



議員との交流をととして、議会の役割や仕組みを学び、市議会に興味を持ってもらうことを目的に、市内在住の小学校・義務教育学校の5年生、6年生を対象に開催しました。参加者は議員による議会の仕組みの説明を受け、正副議長と名刺交換を行い、最後は議場で本物の議会さながらに質問しました。



問…質問、答…回答、意…意見
※ ◎は委員長、○は副委員長

こんなことを審査・調査しました

総務企画常任委員会

【審査分野】市政全般、情報システム、防災、税など
【委員】◎小島耕一○星宏子、赤塚茂昭、矢島秀浩、山形紀弘、相馬剛、大野恭男、齋藤寿一

マイナンバー利用に関する条例を改正し、住民基本台帳に登録されていない者の宛名に関する情報も利用可能になります①

問法律に基づく改正ということだが、具体的に独自利用とはどのようなものか伺う。

答マイナンバーの利用は、社会保障、税、災害対策の分野について国から使用が認められている。これらの分野については、条例で明記することにより、各種申請手続きにマイナンバーを使い、事務手続きを簡略化させて、より効率的に業務を進めるために様々な取り組みを各市町村で行っている。今回、住民として住民基本台帳に登録されていない者の宛名に関する情報も利用可能となったことから条例を一部改正した。

問条例の改正によって、情報の漏えいの懸念はないのか伺う。

答個人情報の取り扱いに関しては、ポリシーを定めて、庁内各課でしっかりと管理をするよう徹底している。

所管事務調査報告

令和7年6月18日（水）に、市有財産の利活用について所管事務調査を実施しました。

平成26年度末に閉校した「旧寺子小学校」と、令和5年度末に閉園した「旧ひがしなす保育園」の跡地利用について、担当職員から、「官民連携による地域の課題解決や価値向上につなげるため、民間活力の導入による利活用提案の公募等により、市有財産の利活用を推進する」との説明を受けました。



福祉教育常任委員会

【審査分野】福祉、子育て、教育、文化、スポーツなど
【委員】◎佐藤一則○林美幸、松野真弓、星野健二、平山武、齋藤誠之、中村芳隆、金子哲也

令和7年6月那須塩原市議会定例会議において、福祉教育常任委員会に付託された議案はありませんでしたので、「活動テーマ」について協議した結果、次のような意見が出されました。

「困難な問題を抱える女性への支援」

困難な問題を抱える女性の現状

市の支援体制の現状・課題・今後の施策

教育現場との連携強化

地域福祉〔民生委員・自治会等〕との連携強化

「教育と地域の連携と協働」

先進事例の実態調査

市の支援体制の現状・課題・今後の施策

教育委員会の支援体制の現状・課題・今後の施策

先生・教育委員会・学校運営協議会と意見交換・地域福祉との連携強化

議案の審査結果

本会議において審議された議案の結果（報告案件は除く）は次のとおりです。

議案番号	件名	結果
同意第4号	那須塩原市監査委員の選任について	同意
同意第5号	人権擁護委員の候補者の推薦について	同意
議案第42号	那須塩原市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について①	可決
議案第43号	令和7年度那須塩原市一般会計補正予算（第3号）②	可決
議案第44号	令和7年度那須塩原市水道事業会計補正予算（第1号）③	可決
議案第45号	令和7年度那須塩原市下水道事業会計補正予算（第1号）	可決
議案第46号	契約の締結について④	可決
議案第47号	土地改良事業の施行について	可決
議案第48号	令和7年度那須塩原市一般会計補正予算（第4号）	可決
発議第14号	那須塩原駅周辺まちづくり特別委員会の設置について	可決
発議第15号	議会活性化特別委員会の設置について	可決

広聴広報委員会からのお知らせ

議案等の審査結果のページと委員会での審査内容のページの関連性を分かりやすくするため、番号を表示しています。

意第5号	那須塩原市副市長の選任について
意第6号	那須塩原市固定資産評価員の選任について
案第56号	令和6年度那須塩原市一般会計補正予算（第1号）
案第57号	市道路線の認定について③
案第58号	令和6年度那須塩原市一般会計補正予算（第2号）
案第59号	令和6年度那須塩原市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
案第60号	令和6年度那須塩原市一般会計補正予算（第2号）

建設経済常任委員会

【審査分野】都市計画、建設、経済
【委員】◎大野恭男、齋藤寿一

県の道路が市に移管され、市が管理する道路が増えます③

問通学路の変更や除雪の計画といったものは変更になるのか。

答変更は特にない。

問今後市が管理運営するとのことであるが、維持管理費はどのようになるのか。

議場コンサート

- ♪開催日時：令和7年9月9日（火）9：30～9：50
- ♪開催場所：市役所本庁舎4階議場
- ♪演奏者：Starryes（ゴスペルクワイア）
- ♪その他：入場無料、予約不要



将来、計画などを自前で策定する能力を養うため、職員教育に予算を充てるべきではないか。

問人口減少を前提とした「縮小型のまちづくり」への転換をどのように位置づけているか伺う。

答将来の人口減少社会を見据え、生活に必要な住民サービスなどを各拠点に集約化するコンパクトな都市構造を目指している。

問生活圏の利便性や移動手段の確保に対する方向性について伺う。

答各拠点に居住や都市機能を緩やかに誘導し長期的な視点で集約化を進めていく。また拠点と周辺集落を効率的につなぐ公共交通ネットワークを構築してまいりたい。

公明クラブ 田村 正宏議員



「フューチャーデザイン」や「バックキャストリング」を活用した「地方創生 2.0」時代の自治体戦略について

問第2次総合計画後期基本計画や関連する部門別計画策定における外部委託の実態について伺う。

答専門的な知見や多様な視点を取り入れるため、市民アンケートや各種統計データの現状分析、人口推計や経済動向予測、計画書の構成案や図表の作成・デザインなどにおいて外部に委託している。

問二地域居住の推進による関係人口の拡大についての考えを伺う。

答全国二地域居住等促進官民連携プラットフォームに参画し国土交通省の職員との情報交換を実施するなど今後の推進に向けて検討を進めている。



林 美幸議員



自治会活動の現状と課題について

問今後の加入促進に向けて実態調査を行う考えはあるのかを伺う。

答加入促進のため状況を把握することは大変重要であると考え、実施時期については今後検討していく。

問高校生が役員となって自治会に関わる仕組みなどは検討できるのかを伺う。

答自治会役員の成り手不足が懸案となっている中で、高校生のような若い世代に参加していただくと、自治会の活性化や新たな視点の導入に効果的であると考えます。

他の自治体でも実際に高校生が自治会役員として参加している事例もあるので、市自治会長連絡協議会の意見も伺いながら研究していく。

地域活動は、難しいことを簡単にすることで、もっと楽しい活動にアップデートできる！

子どもの成長を支援する現場における専門職の活用について

問5歳児健診で、必要な支援につなげるために、どのような手段と流れで情報共有を図っているのか伺う。

答健診前は、保育園や認定こども園等を通じて、保護者に問診票を配布し、家庭での発育、発達の状況、生活習慣などについての情報を収集している。健診当日は、今年度からは医師も参加し、多職種が連携し発達の確認、支援方針の検討を行っている。健診後は、保護者や園へ結果をフィードバックし、必要に応じて療育機関や教育部門などと連携をしながら支援を行っている。

建設経済常任委員会

【審査分野】都市計画、道路、農業、観光、環境、交通、水道など
【委員】◎田村正宏○堤正明、戸張靖久、小出浩美、三本木直人、室井孝幸、森本彰伸、松田寛人

青木ゼロカーボン街区においてCO₂の排出量が削減されます④

問契約の締結により、青木ゼロカーボン街区仮想同期発電機機能付き蓄電池システム及エネルギーマネジメントシステムを導入した場合の効果について伺う。

答大規模災害等で停電が発生した場合にエリア内の酪農家や事業者に電力を供給し事業を継続することができることであり、そのことに伴う経済効果は大きいと判断している。

問システム導入による脱炭素効果について伺う。

答年間110t程度のCO₂削減を見込んでいる。

議員間討議 様々な事業の廃止や施設使用料の有料化が実施されたりしているなかで、ゼロカーボン施策に大きな予算を使うことに関しては、議員間討議を行うべきである。

意契約額は9億6,580万円であり、今後

のランニングコスト等も勘案すると相当高額な案件であるが、脱炭素の推進、事前防災力の強化、市のブランド価値の向上などを加味すれば決して無駄な投資ではない。

意カーボンニュートラルの環境戦略に本市が率先して取り組んでいることに一定の理解はしているが、結果として今後そのことが市民福祉の向上の妨げになることを危惧している。

意国から脱炭素先行地域の指定を受けた事業でもあるので、コストパフォーマンスではなく総合的な観点からの評価が重要である。本市の環境戦略の方向性については改めての議論が必要ではないか。



「仮想同期発電機機能付き蓄電池システム及エネルギーマネジメント」のイメージ図

予算常任委員会

【委員】◎小島耕一 ○佐藤一則 ○田村正宏、その他全議員

地域おこし協力隊が会計年度任用職員から個人事業主に変わります②

問地域おこし協力隊の人数と、その具体的な活動内容を伺う。

答現在5人おり、企画政策課に1人で、三島中学校ダンス部と合同で、ダンスパフォーマンスを実施して地域の魅力を発信している。農務畜産課に1人で、チーズのPRを行っている。ツーリズム推進課に2人で、観光推進とスポーツツーリズムの推進を行っている。スポーツ推進課に1人で、部活動の地域移行に携わっている。

問会計年度任用職員から個人事業主に変わることについて、当該職員の反応を伺う。

答自由度が増し、独立したような形になることから、意識を変えて取り組んでいるという印象である。

イトヨふるさと納税返礼品を体験型ふるさと納税制度として実施します②

問イトヨふるさと納税返礼品の寄附額一人当たり3万円の内容を伺う。

答イトヨは鍋掛小学校の東側を流れる農業用水に生息している魚で、その一生を淡水で過ごす極めて希少な存在で、市の天然記念物として指定されている。近年、気候変動等の影響で生息数が減少しており、実施に当たっては単なる個体数の減少対策等ではなく、天然記念物としての文化財保護、自然環境への理解促進、財源確保として、体験型ふるさと納税制度として実施したい。

配水設備老朽管更新事業を実施します③

問2,200万円増額の理由と事業内容の詳細について伺う。

答今年1月に策定した「上下水道耐震化計画」に基づき実施するもので、病院や避難所など災害時に重要となる施設に向かう管路の耐震化を図るものであり、具体的には、菅間記念病院・黒磯病院・国際医療福祉大学病院周辺の耐震化されていない管路の更新にあたり測量設計業務を行うものである。



金子 哲也議員

**健康長寿センター長寿の湯について**

問年間10万人も利用して楽しんでいるのに、なぜ休止しなければならないのか。約6億円もかけて、市の世代間交流を目指して造った健康長寿センター長寿の湯は、市民が年間10万人も楽しんでいた。

答市の温浴施設は赤字となっている。公共施設を持ち過ぎなのではないかという懸念があり、温浴施設についても見直すこととなった。民間活用に向け、企業と話をしているので御理解願いたい。

問いったい誰が休止を決めたのか。

答市全体として決めた。

公民館使用料の有料化について

問新庁舎建設に137億円もかけるのに、なぜ50円100円の使用料を取らなければなら

6億もかけて西那須野町がつくった長寿の湯を突然休止とはいったいどういうことか。

ないのか。

答受益者負担の公平性の確保を図ることを目的にしている。

市主催のまつりの廃止について

問市民の楽しみであり魂でもある、長年つくりあげた市のまつりが、今なぜ廃止なのか。

答多くのまつりが、実行委員会形式でありながら、準備から片付けまで市職員が主体で担ってきた。まつり本来の在り方を検討した結果、市民が主体となってつくり上げるべきという結論に至った。



森本 彰伸議員

**市民と協働の災害対策について**

問消防団の人員確保について、若年層の入団促進にどのようなことを行っているか。

答令和5～6年度は、黒磯南高等学校に出向き生徒に放水訓練体験をしてもらい、消防団のPRを行った。今年度は5月に黒磯高等学校で実施し、秋には那須拓陽高等学校に出向く予定である。

問高校生の反応はいかがだったか。

答放水体験のほかに車両の装備品体験、AED操作体験などを行った。大変興味を持った様子で参加していたと伺っている。数人の学生から、卒業したら入団したいような話もあったと聞いている。

問避難所は、収容能力は十分であるという答弁があったが、市内全体ではその通りでも、地域ごとに人口密度が違う中、災害発生時の

自助、共助そして公助が連携し、市民の安全を守ることが大切です。

避難者の人数も違う。地域ごとのバランスを考えて避難所は十分であると言えるか伺う。

答避難所には、公民館あるいは小中学校を指定している。市全体としてはということでお答えしたが、地域の人口と避難所の面積が適正かの計算はしていない。

問災害時に被災者に向け情報発信をする地域FMは有効な情報発信手段であるとする。通常は市の広報としても使えることから、無駄のないシステムではないかと思うが、市として地域FMを運営する考えはないか伺う。

答現時点ではFM局の運営ということでは検討する状況にはないと考えている。



佐藤 一則議員

**特別の教科道徳について**

問教科化後の道徳科の授業における成果と課題について伺う。

答成果は、互いの意見を尊重し合い自己の生き方についての考えを深める活動を通して、自己肯定感が向上していることである。課題は、深い議論を促し、児童生徒の内面に迫るような質の高い授業を行うための教師の指導力の向上や、児童生徒個々の良さを認め、励ます、記述による評価という道徳科特有の評価方法の工夫という点である。

問いじめや不登校、自殺といった問題が深刻だが、道徳教育を通じてこれらの問題の未然防止にどのように貢献できるのか伺う。

答子どもたちが自己肯定感を育むことでこれらの問題の未然防止に貢献できると考える。自己肯定感は、困難に直面した際の精神的支

家庭や地域社会との連携を密にし、子どもの視点に立ち、子ども一人一人の持つ能力を引き出す教育を願う。

えとなり、失敗から学び、困難を乗り越える力を養うことにつながると考える。

現代社会の大人のモラル、意識・自覚がもたらす子どもへの影響について

問利己主義的な大人社会の風潮が進展してきている現状と子どもへの影響について伺う。

答最近、利己主義的な大人社会の風潮が影響している事件が多発していることは認識しており、大人の言動が子どもに大きな影響を及ぼすため、大人が子どもの良き手本となることが重要と捉えている。



矢島 秀浩議員

**スポーツツーリズム推進について**

問本市のスポーツツーリズムの実績、現状について。

答那須塩原市スポーツコミッションを令和5年度に設立し、大学の剣道部の合宿や男子プロゴルフの大会、女子ソフトボールのジャパンダイヤモンドリーグ等さまざまな開催されており、世界陸上ウクライナ選手団の事前キャンプも決まっている。本市は県内でもいち早くスポーツコミッションを立ち上げ実績も上げていると考えている。

問どのような形で推進、PRしていく考えか伺う。

答那須塩原スポーツコミッション独自のホームページやSNS、パンフレットの配布、モニターツアーの実施やスポーツ団体へのPRなどを行っている。また、栃木県スポーツコ

本市のスポーツツーリズムが観光施策だけではなく地域活性化、健康促進、地域愛に繋がることを期待します。

ミッションとホームページの相互リンクや情報交換を行っている。

問専門家などの人材の確保、新たな設備について伺う。

答インストラクターやアウトドアガイドなど専門家との連携が必要であると考えており、今後はそのような人材の活用を図っていく。また、新設備を整備する予定はないが、引き続き既存施設を有効活用する。

問今後の展望について伺う。

答本市の魅力である温泉やこの地でしか味わえない食、充実させた体育施設等をより一層PRし、交流人口の増加と宿泊や飲食などを通して、地域経済の活性化を図っていく。



山形 紀弘議員



持続可能な観光行政について

問 持続可能な観光の推進に向け、法定外目的税に対する市の見解を伺う。

答 持続可能な観光を推進するためには、安定的な財源を確保することが重要と考えており、法定外目的税の導入は、財源確保の有効な手段の一つである。

問 導入した場合の税収は、具体的にどのような観光施策に活用する考えがあるのか伺う。

答 本市の法定外目的税検討委員会において、法定外目的税の使途は、持続可能な観光地を形成するための未来への投資に資する事業としており、市の付加価値を高める新たな取り組みの財源とする方針であり、今後も検討を進めて行く。

黒磯駅西口エレベーター設置要望とくるる・みるるを災害時の避難場所として活用することを期待する。

黒磯駅周辺整備計画の検証と今後について

問 黒磯駅西口のエレベーター未設置の理由と見解について伺う。

答 設置予定箇所がＪＲの所有地であり、新幹線の高架橋の桁が低いため未設置である。しかしエレベーター設置に関しては必要性を感じている。

問 みるる・くるるを災害時の避難場所等として活用することについての考えを伺う。

答 現在、市内に指定している 53 か所の避難所について、収容能力や備蓄品の管理体制などを踏まえ、新たな避難所の追加は考えていない。一方で、黒磯駅が東北・東京方面の折り返し地点であり、みるる・くるるも駅に近接するなどの立地特性を踏まえ、災害時の利活用について今後研究する。



大野 恭男議員



介護認定調査の遅れについて

問 申請から認定結果が出るまでどのくらいの時間を要し、また遅れている原因の分析と、どのように対応してきたか伺う。

答 申請から認定結果が出るまで約 70 日、時間を要している。遅れの要因として令和 5 年度に新型コロナの認定期間延長特例が終了し更新申請に係る認定調査件数が大きく増加した。これについては、令和 6 年度から調査員を増員し、デジタル化を進める対策を講じたが年度途中で調査員の退職が相次ぎ、計画通りに調査が進まず認定が遅れる結果となった。

問 近隣市町の状況を把握しているか伺う。

答 近隣市町では認定結果が出るまで約 40 日で本市は 30 日程度遅れている状況であり早く打開していきたい。

介護認定は高齢者が適切な介護サービスを受ける為の第一歩であり重要なことである。

問 認定結果の遅れが申請者や家族等にどのような影響を及ぼしていると考えるか伺う。

答 制度上は認定前であっても暫定的なサービス利用ができることにはなっているが、当然ながら調査結果の遅れによって適切な介護サービスを安心して利用することができなくなる。事態を深刻に受け止めている。

問 今後の見通しと対応策を伺う。

答 介護認定調査はマンパワーを必要とすることから個人や市外事業者への外部委託の拡充や調査員の増員等に引き続き取り組んでいく。これらの取り組みにより秋頃には認定の遅れが収束していく見通しである。



星野 健二議員



市営住宅の入居促進について

問 今後の需要と供給のバランスをどのように考えているのか。

答 今後は、人口減少に伴い、要支援世帯も減少すると考えられることから、市営住宅の再編・集約化を図り、適正な戸数を維持していきたい。

問 住宅確保要支援者が安心して利用できるよう、また空室を解消するためにも、入居条件の緩和など早急に対策を行うことが必要と考えるが、市の考えを伺う。

答 国の制度では、地域に居住しようとする者に対して、公営住宅ストックを弾力的に活用できるものなどがある。長寿命化計画に基づき、適正に住宅戸数を管理するとともに、他自治体の事例を研究し、空室の活用策を検討していく。

1. 市営住宅の入居促進について。
2. 子育て環境の充実について。

子育て環境の充実について

問 児童福祉法の改正でこども家庭センターが設置された。本市の現状と課題について。

答 令和 6 年 4 月から子育て相談課をこども家庭センターと位置づけて、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない包括的な相談支援を行っている。課題としては、それぞれの状況が複雑化・複合化しているという事案が増えており、職員の専門性の向上が課題である。

問 保育ソーシャルワークを行う専用スタッフを本市も積極的に配置を検討してはどうか。

答 令和 6 年度から、保育施設等の巡回支援事業を行っている。保育ソーシャルワークを行う専門スタッフの制度の活用については、職員の専門性の向上と合わせて、引き続き検討していく。



星 宏子議員



災害関連死防止への市の取り組みについて

問 内閣府は、キッチンカー、トレーラーハウス、トイレカーなどを有効活用するため災害対応車両登録制度の運用を本年 6 月 1 日より開始し、発災直後から温かい食事や快適な居住、衛生環境等を提供できるようにした。本市が協定を締結した事業所はトレーラーホテルのほか、移動式のトイレも所有している。また、キッチンカー事業者への災害車両制度への登録を進め、災害関連死防止のため※ＴＫＢの充実を図る必要があるのではないか。

答 この制度の内容は、災害対応車両の所有者等が内閣総理大臣に申請して検索システムに登録され、災害時に被災した自治体からの要請によって、登録されている車両が活用される制度であり、避難所等における生活環境の整備は大切と考えている。

災害関連死を防ぐには平常時からの備えが大切。自らの備えも大切です。常備薬、非常食や水など災害時の備蓄の確認を！

問 本市の災害弔慰金の支給対象に災害関連死も含まれるのか伺う。

答 災害弔慰金は災害弔慰金の支給等に関する法律に基づき支給するものであり、災害との因果関係が認められる災害関連死も支給対象となっている。

带状疱疹の早期治療の啓発への取り組みについて

問 带状疱疹のセミナー等を開催し、早期治療の啓発へ取り組む考えはあるか伺う。

答 県北健康福祉センターや那須郡市医師会等へ相談しながら周知啓発をしてまいりたい。

※ＴＫＢとはトイレ、キッチン、ベッドの頭文字。Ｔ（トイレは清潔であること）Ｋ（キッチンは温かい食事が提供できること）、Ｂ（ベッドは床での雑魚寝を避けること）



堤 正明議員



投票率と市政への関心の向上策について

問 市政への関心を高め投票率を向上するには、住民生活に直結する政治課題・地域の課題についてより一層、市民と対話を重ねる必要があります、ネット利用に慣れている若い世代の方への情報提供も必要だと考えることからお聞きする。

答 ユーチューブなどのSNSを活用した啓発については、若年層に対して一定の効果が期待できる。これから周知の方法や拡散の仕方など、先進自治体の事例を参考にしながら調査研究を行っていく。

2040年問題における本市の課題と対策について

問 2040年代には日本の高齢者人口がピークを迎える一方で、労働の担い手が不足すると

高齢化時代に対応した市民サービスの向上を。

指摘され、公共施設やインフラの老朽化などの対策が必要と考えることからお聞きする。

答 インフラ分野の道路施設、上下水道施設は、2040年問題も見据え、将来にわたる持続可能な維持管理、事業運営が重要であり、安全・安心な社会基盤を維持していくために計画的な施設更新と財源や労働の担い手確保が課題である。対策は、予防保全など効率的な事業執行と安定した財政運営とのバランスが重要である。担い手不足は、社会全体での人材育成や新技術の導入による作業効率の向上を図る必要がある。

公共交通分野でも担い手不足で運行便数や路線の維持が難しくなる。対策として運行事業者の運転手確保支援、自動運転などの導入を検討していく。



戸張 靖久議員



通学路の安全確保について

問 子どもたちの通学の安全を守るとは行政の優先事項と考えることから、市の取り組みについて伺う。

答 市民の声を集める手段として「安心みるレポート」という投稿アプリを活用している。通学路ではカラー舗装の整備を進めており、昨年度は約2kmの整備を実施した。今年度は下豊浦横線と下厚崎縦道西線を計画している。歩道の整備についても、道路改良にあわせて計画している。

問 スクールガードへの処遇改善・報奨制度の見直しについて伺う。

答 地域の善意による活動であることから謝礼等は考えていないが、感謝の気持ちを持ちつつ、保険加入などの支援は今後も継続していく。

移動から感動へ。駅は地域の顔であり、まちの発展をけん引する重要な拠点です。

駅との連携によるまちづくりの推進について

問 栃木県北の玄関口として高いポテンシャルを秘めていると考える。現状の取り組みについて伺う。

答 市内3駅を拠点に、観光や文化、居住の魅力を発信している。JR・那須町と連携しながら地域の活性化を図っている。

問 今後の展望について伺う。

答 駅周辺の整備については、官民連携によるランドデザイン会議を設置し、令和7年度のまちづくり基本計画策定に向け検討中。今後も、駅を拠点としたにぎわいづくりを進めていく。



小出 浩美議員



稼ぐ観光振興について

問 観光地としての魅力、知名度を高める、持続可能な観光地づくりについて伺う。

答 常に付加価値を生み出し続けられる状況を持続可能と捉えている。那須塩原市に足りないものは、付加価値である。もっともっと付加価値を高めていきたい。

問 那須塩原市観光局に期待することについて伺う。

答 那須町、大田原市との広域連携を強めていくこと、本格的なマーケティングでブラッシュアップし、付加価値を上げることである。

問 3つの観光協会の役割について伺う。

答 地域の特性を生かした活動、観光事業者の少ない西那須野地区においても新しい可能性があると思っている。

初登壇、私の5つの政治目標の1つである「稼ぐ力を育む市政」の観点で質問しました。

観光と農業を核とした地域活性化について

問 塩原地区は温泉地、高原野菜の産地として名高いが、人口減少によりその存続が厳しいとの危機感があり、地元関係者などによる意見交換が行われている。観光と農業を核とした地域活性化の可能性について伺う。

答 観光と農業をセットで売り出し、移住者や関係人口を増やすために、農村RMO（農村型地域運営組織）、おてつたび（お手伝いしながら旅する）、お試し居住などを研究していく。



「塩原地区の農業農村活性化に向けた意見交換会」資料



松野 真弓議員



指定難病患者の生活支援体制について

問 難病患者の認知度を上げるための啓発について伺う。

答 庁舎内にポスターの掲示、また難病患者が抱える問題等の認知度を向上させるために県と十分に協議、調整をしながら市として発信できる啓発を検討していきたい。

問 難病患者への減免制度の取り組みについて伺う。

答 市有施設については県や先進事例市の事例を研究し、施設担当課と協議、調整を図っていききたい。また民間施設に関しては施設に市がどのような働きかけができるのか検討していきたい。

野犬の捕獲とその対応、ペットの在り方について

問 野犬を増やさないために本市として考える

動物や困難を抱える人に優しいまちづくりで市のイメージアップ、市民福祉の向上につなげて欲しい。

対策について伺う。

答 今年度から県の職員が野犬の巡回をする際に庁舎に赴き、市に入った苦情などの情報交換を行っている。今後は野犬生息地域の住民や自治会等への啓発及び捕獲への協力、野犬の生息数減少に向けた住民への広報について県と協議してまいりたい。

問 犬や猫の正しい飼い方の啓発について本市の考えを伺う。

答 野犬のような飼い主のいない犬や猫などを生み出さないための意識の醸成や社会の構築などの取り組みが必要であると認識している。市では現在、動物愛護に対する考え方を示すものとして、犬や猫などのペットに優しいまちを目指した条例を作ることを検討している。



赤塚 茂昭議員



地域のまつりの振興と課題について

問地域のまつりの主体である市民は、個人事業主が多く、本業の仕事の時間を削り、まつりの準備をしている現状である。市民が尽力するのは、次世代によりよいバトンを繋ぐためである。市民主体のおまつりに関し市は後方支援していくとのことだが、市民主体だけでは限界もあり、職員も市民との協働で同じ目的を持って取り組むことで市民との距離が近くなり、行政運営を担う意味でも効果が望めると考えるが、改めて今後の市職員の関わり方について所見を伺う。

まつりは次世代へ継承し、地域の活力と絆をより一層深めるために重要と考える。

答市の職員であっても、まつりに参加することは、例えば、仕事ではなく個人的に参加するということもできる。また、担当部局とよく連携しながら、どんな支援ができるのか話し合いをしながら進めていきたいと考えている。



「西那須野ふれあいまつりの子どもみこし」の写真



三本木 直人議員



那須塩原ブランドニットプロジェクトについて

問ブランドニットプロジェクトを始めた背景について伺う。

答市制20周年になって、市としてどういうまちにしていこうかという一環で、那須塩原だと好きなことをできる、選択肢が多いという特徴があるということで、「あわい」という言葉を使い「好きを、編む。」というものになった。

市民に広めていくための取り組み内容について

問ブランディング戦略における今後の事業展開について伺う。

答沢山イベントやワークショップを開きたいと思っている。色々な地域でワークショップ

1. 那須塩原ブランドニットプロジェクトについて
2. ふるさと納税について

を行い「好きを、編む。」に愛着を持っていただき、かつ「那須塩原ってどういうまちなんだろう、これからはどの様になっていけばいいんだろう」と意識していただき、事業所などでも自分たちの好きなメッセージを入れて、何か「好きを、編む。」を自分達でカスタマイズしていただけたらと考えている。また、市の農産品や特産品などトータルでのブランディングのイメージを意識付けしていきたいと思っている。ぜひ議員にもこの「好きを、編む。」を、使っていただけるとありがたいと思っている。



小島 耕一議員



カーボンニュートラルの推進について

問青木地区ゼロカーボン街区構築事業での237軒の住宅への太陽光発電設備・蓄電池の導入予算はいくらになるのか。

答設置費の3分の2を補助しており、全額を国の交付金を活用し、約1億7千万円になる。

問21軒の酪農家の太陽光発電設備・蓄電池導入の予算額はいくらで、課題は何か。

答令和7年度予算は7億円で、課題は屋根への長期使用の不安であり、縦型太陽光などの導入を提案している。

問酪農家の電力利用は200Vの三相電力だが、太陽光発電設備・蓄電池は対応しているのか。

答太陽光発電設備でも三相用のパワコンを設置できるが、三相用の蓄電池は小さいものでも1,500万円かかることから、減価償却費

長寿の湯が休業となり、高齢者の健康悪化が危惧される。早期の再開が必要。

が大きくなることが課題である。

市温泉施設の民間活用について

問長寿の湯の利用に向けて、複数の事業者と協議を行っているが、課題は何か。

答健康長寿センターの施設内施設であることから、自由度が低いと感じられ、物価高騰の影響で採算性が見通せないことである。

問今年度の施設利用のスケジュールはどうなるのか。

答民間事業者との協議による公募条件の整理、コンセッションのための健康長寿センター条例の改正、公募や業者選定、議会の承認後、契約の締結、事業開始といった流れになり、条例改正から契約締結まではおおむね半年と想定している。

市議会レポート

全国市議会議長会から表彰

全国市議会議長会の「部会長」及び「理事」、並びに、「国と地方の協議の場等に関する特別委員会委員」として全国市議会議長会に関する会務運営に貢献したことにより、山形紀弘議員に対し、全国市議会議長会から、感謝状が送られました。

また、市議会議員として20年以上在職し、市政の振興に貢献したことにより、眞壁俊郎前議員に対しても、全国市議会議長会から、表彰状が送られました。

広聴広報委員会新体制発足

後列左から
松野真弓、矢島秀浩、森本彰伸、佐藤一則

前列左から
赤塚茂昭、戸張靖久（副委員長）、林美幸（委員長）、三本木直人、星宏子



Future

～わたしの夢～ No.32

南小学校 6年

かとう れん た
加藤 廉大さん

箱根路を走りたい

僕の将来の夢は、正月に人々を魅了する箱根駅伝を走ることです。初めて見た箱根路に心を奪われ、大好きな親戚のおじさんが五区の山登りで三位でゴールした姿は今も鮮明に覚えています。おじさんのように、あの舞台で輝きたいと強く願うようになりました。この夢のため、僕は毎日早朝ランニングを欠かさず、筋力や体幹トレーニングにも励んでいます。夢を叶えるため、二つのことを意識しています。一つは、挨拶と感謝で「応援される選手」になること。もう一つは、練習に真剣に取り組み、技術とスピードを磨くことです。これらの努力を積み重ね、必ず箱根路を駆け抜け、多くの人に感動を与えられる選手になりたいです。



走ることへの情熱と箱根駅伝の夢を胸に、市内・地区の陸上競技大会、駅伝大会、くろいそ巻狩マラソン大会で好成績を取めた廉大さん。学校では明るいムードメーカーで、運動会では団長として皆をけん引。文武両道に秀で、ひたむきな努力を続ける彼を推薦します。

(推薦者 萩原 まゆみ先生談)

議会暦

日	月	火	水	木	金	土
8/31	9/1	2	3	4	5 本会議 再開・提案説明	6
7	8	9	10	11	12 本会議 一般質問	13
14	15 本会議 会派代表質問	16 本会議 一般質問	17 本会議 一般質問	18 本会議 一般質問	19 本会議 一般質問	20
21	22 本会議 一般質問・議案質疑	23 常任委員会	24 常任委員会	25 常任委員会	26	27
28	29 常任委員会	30 議員全員協議会 予算常任委員会 決算審査特別委員会	10/1 本会議 採決・散会	2	3	4

※上記の日程は予定です。今後変更になる場合があります。

本会議、常任委員会は、午前10時開会予定です。

会派代表質問は午前9時25分開会予定です。

編集後記

私たち広聴広報委員会では、市民の皆さまと議会をつなぐ「架け橋」として、より見やすく、わかりやすく、そして親しみやすい議会だよりを目指して編集に取り組んでいます。

市政や議会の動きが、少しでも身近に感じていただけるよう、今後も内容の充実と工夫を重ねてまいります。「こういう情報が知りたい」「もっとこうしてほしい」といったご意見がありましたら、ぜひお寄せください。

これからも市民の声にしっかりと耳を傾け、開かれた議会の実現に努めてまいります。

引き続き、那須塩原市議会だよりをご愛読いただき、ありがとうございます。お願い申し上げます。

(林 美幸)